

人と人との「ふれあい」が育む国際化。

● 広がる国際交流「ホームステイ・カンントリー熊本」



7年目を迎える米国モンタナ州高校生のホームステイ。今年も男女10人の高校生が県内の家庭にやってきました。彼らは、20日間ホストファミリーと楽しい日々を過ごします。

「観光客として観光地を見て回るよりも、家庭の中に入って、一緒にご飯を食べて、寝て……。本当に、人と人として接することができたし、人の温かさを体験することができました。来てよかったと思います。もう少し長くいたいですね。」

メアリー・ベス・ギリランドさん、17歳。彼女は、モンタナ州の小さな町ホワイトフィッシュから、はるばる熊本へやってきました。旅行が好きで、貿易関係の仕事に興味を持つメアリーは、日本にも前から関心を寄せていました。

「日本の歌舞伎とか能とか。そういう伝統的なものに魅かれるんです。」
憧れの日本にやって来た彼女たちは、全国高文祭や天草インターナショナル・サマースクールにも参加。熊本の高校生たちと交流を深めました。さらに、出水南中学校では、一日入学を体験。日本の子供たちに混じって、日本料理や習字を習いました。初めて握った筆を手には、はしゃいだり、喜んだり。火の国祭りでは、おてもやん総踊りに参加。自分のハッピー姿に大満足のようでした。

「ハッピー大好きです。すごく伝統的で、昔から伝わっている衣裳を、今でも祭りで見ているという事は、素晴らしいことだと思います。」
火の国祭りのハッピーは、メアリーの宝物になったようです。

メアリーがホームステイしているのは、熊本市武蔵ヶ丘の星子弘毅さん宅。大学生の弘美さん、高校二年生の美紀さんと、やさしいお母さん（みどりさん）の四人家族です。弘美さんと美紀さんはモンタナ州にホームステイした経験もあり、日本語がほとんど喋れない



いメアリーとの会話も英語で何なくこなします。この10日間は昼も夜もメアリーと一緒に「彼女の好奇心の強さとパタリテイに驚かされるばかりです。毎日外に出て、いろんなものを見たり、聞いたり。遊ぶときは、徹底的に遊んだり。時間をフルに活用して、熊本での生活をエンジョイしています。」と弘美さん。熊本での20日間は、メアリーにとって、すべてが新しく興味深いものでした。モンタナに帰ったら、友達に日記を見せるそうです。熊本で行ったところ、見たこと感じたこと……その日記には、彼女の「日本」が詰まっているのかもしれない。

「熊本でいちばん印象に残っているのは、「人と文化」と、笑顔で語るメアリー。いったいどんな「人と文化」を見つけたのでしょうか。」

熊本県は、「ホームステイ・カンントリー熊本」づくりをテーマに、ホームステイ家族数日本一を目指しています。そして、多くの人々が外国人と直に触れ合い、異文化を肌で感じとってくれば、星子さんのような国際人ももっと増えていくことでしょう。家庭に入って一緒に生活することが、いちばんのコミュニケーション。そのためには、ホームステイの役割は重要です。メアリーのようなホームステイはもちろん、企業研修と組み合わせたインター・ホ



ームステイ、農村部でのファーム・ステイ、留学生たちのホームステイなど。今後ホームステイの機会は限りなく広がっていくものと思われれます。

国際交流も、今や個人と個人の時代です。個人としての交流が進めば、友人のいる国との戦争など考えることもなくなるでしょう。

「アメリカ人って、ドライと思われがちですけど、本当はとてもやさしいんですよね。そして、すごく義理がたい。日本人よりもずっとね。だから、ホストファミリーやっつてよかったですね。でないと勘違いしたままでした。今では、すっかりアメリカのファンですよ。」
星子さんの言葉が印象的に蘇ります。



ホームステイ・ホストファミリーについてのお問い合わせ先
● 熊本県 総務部国際交流室
TEL (096) 383-1111代 内線2827まで